

与那国島における史跡等の巡見報告

崎 原 恭 子

Brief notes on historical sites of Yonagunijima Island

Kyoko SAKIHARA

与那国島総合調査報告書、沖縄県立博物館・美術館 別刷

2009年3月30日

Reprinted from Survey Reports on Natural History, History and Culture of
Yonagunijima Island, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

March, 2009

与那国島における史跡等の巡見報告

崎 原 恭 子*

Brief notes on historical sites of Yonagunijima Island

Kyoko SAKIHARA*

はじめに

与那国島は日本の最西端にあたる島で、那覇市から520km、石垣から128km、台湾から111kmのところに位置している。この島ひとつで人口約1,600人が住む「与那国町」という行政区画となっている。八重山諸島のなかでも台湾との距離がもっとも近く、もやのない晴れた日には、最西端之地の碑がある西崎から、はっきりと台湾を臨むことができる。このような地理的な特徴は、与那国島の辿った歴史の根本となっている。島嶼県である沖縄県全体の特色でもあるが、与那国島も独特な自然環境や文化の形成があり、「国境の島」と呼ばれるように「外国」と接する最前線としての歴史を形成した。

琉球王国時代には、与那国島に外国からの漂流民を移送するシステムがあった。『朝鮮王朝実録』には、朝鮮人が与那国島から各島を経由し、首里まで移送された記録が残されている（琉球政府文化財保護委員会監修、1972）。また、近世期の1644年には琉球の各地に遠見台が設けられ、与那国島にも異国船等を監視する制度が敷かれていた（黒島、1990）。近代には、日本に組み込まれた台湾との接点が強くなり、出稼ぎや貿易等で多くの人々が行き交った。沖縄戦後も頻繁な往来があり、終戦直後に台湾から運ばれたといわれる貿易品も残されている（新城・萩尾、1995）。

このように、与那国島は地理的な特徴から独特な

自然・歴史・文化が育まれた島である。それらは国や県、町などの指定文化財からもうかがうことができる。

この度の調査では、与那国島に残されている史跡等のうち、数カ所を巡見して現状を確認した。現地での調査は2005年1月26～28日で実施した。その期間中に与那国島で見聞きした結果を踏まえ、先達の優れた文献等を参考に、若干のまとめを行うこととしたい。

与那国町の指定文化財

与那国町には、2008年度までに国指定2件、県指定6件、町指定9件、登録有形文化財（建造物）8件の指定文化財がある（表1，図1）。指定文化財の特徴として、天然記念物および名勝が多い。また、民俗文化財の指定や民家の登録有形文化財（建造物）への指定からも、与那国島が持つ独自性をうかがうことができる。ただ、それらと比較して、史跡の指定が少ないことも特徴として挙げられる。その理由として、琉球王国時代に与那国島には士族がいなかったため、史料が圧倒的に少ないことが関係している（富島、1989）。

1979年に刊行された『与那国町の文化財』には、未指定も含めて40件の文化財が報告されている（与那国町教育委員会、1979）。2003年に刊行された『人頭税廃止百年記念誌あさばな』には、特に人頭

※ 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

* Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

税が課されていた王国時代から明治時代の人頭税に関わる場所が多く紹介されている（八重山人頭税廃止百年記念事業期成会，2003）。それらで紹介された史跡等の中心は19世紀ごろまでであり、それ以降はほとんど報告されていなかった。近代から現代までの歴史を伝える史跡等は、今後より重要になると考えられる。指定文化財には上らないが、近代から現代にかけての与那国島の歴史を示す史跡等の場所は、現地で多くの島民から聞くことができたため、地元ではよく知られていると思われる。この時期の史跡等については、悉皆調査等によって詳細に記録する必要があると考えられる。

史跡等の個別巡見報告

以下は、2005年1月の現状報告である。ある程度、時系列にまとめた。指定文化財になっていない場所も必要に応じて報告したい。

ていだん・どうぐる（町指定有形民俗文化財）

字祖納の集落内にある、与那国の島建伝説が残されている場所である。「太陽所」と当て字される（嵩元，1990）。

『与那国町の文化財』に掲載された写真では木造建てだったが、現在はコンクリート建てのトタン葺きとなっていた。



写真1 ていだん・どうぐる

ティンダバナ（県指定名勝）

字祖納の南西にある、琉球石灰岩から成る標高約85mの断崖である。東シナ海（東海）から波多浜（ナンタ浜）、田原川、祖納集落を一望できる景勝地であり、自然展望台として観光名所の一つになっている。南東方向には宇良部岳を臨み、天然記念物のヨナグニサンをはじめ、与那国島の生物標本等を数多く展示しているアヤミハビル館を遠くに眺めることができる。ティンダバナとは、「天蛇鼻」「陰座鼻」と当て字されるそうである（嵩元，1990）。

ティンダバナはその眺望の良さから、与那国島の遠見番人が詰める遠見台であった「ダティグチヂィ」（国指定史跡）のほかに、琉球王国時代の遠見台として使用された可能性が指摘されている（黒島，1990）。



写真2 ティンダバナを祖納集落から臨む

女酋長サンアイ・イソバ出生の地（町指定史跡）といぬがん（町指定有形民俗文化財）

サンアン・イソバとは、15世紀末に与那国島に君臨したとされる人物である。伝承では、四人の男兄弟を村々に配置し、自ら与那国島を統治したと言われている（嵩元，1990）。いぬがんは、久米島から首里王府への貢物を載せた船が与那国島に漂着し、その船に乗っていた女性と犬が住んでいた場所という伝承が残る洞穴である。

いずれもティンダバナに登る途中にある。現在、「略歴」としてサンアイ・イソバの伝承が刻まれた碑や、町指定文化財の説明版が設置されていた。



写真3 いぬがん

「ぐむてい・んに」(御用船) 船員宿泊所

「ぐむてい・んに」とは、琉球王国時代に首里王府へ上納する品物を積んだ御用船のことである。波多港は与那国島の玄関口であり、御用船もこの港を使用していた。船員の宿泊所は波多港に隣接する個人宅周辺にあったとされる。荒天のため風待ちを余儀なくされると、「なりこ」(順風願い)をする習わしがあり、牛を屠り、御用船の船員を招待して宴を催したようである(米城, 2003 a)。



写真4 「ぐむてい・んに」(御用船) 船員宿泊所跡

「はま・やてい」(浜小屋) 跡

「はま・やてい」とは、首里王府への上納物の検収所のことである。隣接した場所には布晒し女や御用布を仕上げる男の詰め所、俵を量る小屋、布晒し小屋などの建物があったそうである(米城, 2003 a)。現在、個人住宅や店舗、駐車場等になっており、当時の面影を求めることは難しかった。しかし、いずれも現在の波多浜より歩いて5分とかからない場所

にあったため、立地条件としてその雰囲気を感じることができた。



写真5 「はま・やてい」(浜小屋) 跡

「ばんにヌゆ」跡

「ばんにヌゆ」跡は、祖納から西方への出口に木屋を建て、農民を田畑に送り出す前の点呼を行った場所である。このような木屋が、農民管理の手段として使用されたことは『富川親方八重山島諸村公事帳』(1874年)にも載っており、徹底した管理体制であったことがうかがえる(米城, 2003 a)。波多浜から西側に向かい、字潮原へ登る坂道の頂付近にあったと伝えられている。

現在では、波多浜から登る階段が設置され、舗装道路から頂付近に登ることができる。



写真6 「ばんにヌゆ」跡(頂付近)

トゥング田(人舂田)

琉球王国時代に王府から課されていた人頭税制度から派生した悲惨な伝承が残されている場所である。

祖納から比川方面へ向かう途中の字盤田にあり、現在、畑として利用されていた。道路沿いに「トゥングダ（人舛田）」の案内看板が設置されていた。



写真7 トゥング田（人舛田）

人頭税に関する場所としては、その他に県指定名勝となっている久部良バリや、比川浜が知られている（米城，2003 b）。

人頭税は、1903年に撤廃されるまで島民に賦課されていた税である。その廃止100年を記念し、2002年に「八重山人頭税廃止百年記念事業期生会」が設立された。八重山の各教育委員会や研究者、一般市民からも広く寄付を募った記念事業が展開され、芸能公演、展示会、記念誌の刊行などが行われた。石垣市・竹富町・与那国町には、それぞれ記念碑が建立されている。



写真8 与那国島（祖納）にある「人頭税廃止百年記念の碑」

村役人の詰め所跡および「あさんぎ」（村番所跡）

現在、与那国町役場の敷地となっているところは、かつて村役人が詰めていた宿舎であった。村役人は、石垣出身者の士族階級が担い、与人、目差、筆者などの役職を受け持っていた（米城，2003 a）。役場敷地の近くにある与那国診療所は、村番所跡である（米城，2003 a）。

『明治期の八重山諸島絵図』や『与那国の歴史』（池間，1955）からも往時を偲ばれるが、当時の面影を求めることは難しい現状であった。



写真9 村役人の詰め所跡（現・与那国町役場）

発田鯉節工場跡

かつて字久部良にあった鯉節工場跡である。与那国民俗資料館所蔵の「与那国案内写真帳」（宮里写真館発行）に戦前の工場外観写真が載っていた。与那国島には鯉節工場が3ヵ所あり、祖納に2ヵ所、久部良にあった1ヵ所がこの発田鯉節工場である。もともと宮崎県出身の発田貞彦氏が祖納で操業したが、のちに久部良へ移転した。発田氏などを中心として、与那国における近代的な鯉節工場の操業と製氷工場の新設により、1936年には鯉節生産が日本一となった（宮城，1993）。

現在、民家や倉庫が建ち並んでいるところにかつての工場があったそうである。その一角に、煉瓦がむき出しになっている外壁跡が残されていた。祖納の仲嵩鯉節工場では、漁船が工場近くまで入ることができたらしい。発田鯉節工場でも同じような状況だったかもしれないが、周囲は埋め立てられ変化していた。



写真10 発田鯉節工場跡
(左側に工場があったそうである。)

入福浜家住宅主屋（登録有形文化財（建造物））

大正初期に建てられた木造平屋建の住宅である。現在は、隣接するコンクリート2階建ての建物と合わせて、旅館として利用されている。2002年に屋根の改修が行われたが、90年ほど前に建てられた当初の柱をそのまま使い、障子もそのままであると伺った。南側から順に一〜三番座まであり、二番座に床の間と仏壇、裏には3部屋配置されていた。地域的特色を良く残す貴重な木造建築で、再現することが容易でない建造物ということから、登録有形文化財（建造物）として指定されている。2005年1月現在、大人数用の客室として一〜三番座も利用されていた。



写真11 入福浜家住宅主屋

その他、戦後の台湾との交易を伝える貿易品が与那国民俗資料館に収蔵されていた。その内容については、新城・萩尾（1995）の報告に詳しい。また、台湾産の石材が使われた最西端之地の碑（1980年建

立）、祖納集落にある十山神社、旧道沿いにあった島仲橋、与那国空港近く西側にある与那国中学校発祥の地など、与那国島の歴史を伝える史跡は他にもあった。そのほか、特に標識等はないが、伝承地を含めた多くの史跡も知られている。

おわりに

当報告は、2005年1月現在での現状報告である。与那国島の史跡等を巡見して、若干のまとめを行うと、特に近代から現代にかけての史跡等のほとんどは姿を変えつつあると感じられた。一部分ではあるが、この度の調査で近代の史跡の状況をうかがえたことは大きな収穫であった。

文化財を取り巻く環境は刻々と変化し続けている。最近、与那国空港の滑走路拡張工事が終了し、周辺の景観もだいぶ変わったそうである。与那国島の歴史を伝える史跡等について、さらなる確認および報告の必要性を感じた次第である。

近年、与那国町は地図や地名を主とした町史を刊行した（与那国町，2002）。国指定史跡の増加や登録有形文化財の指定など、島を取り巻く文化財への関心は高まっていると思われる。

文化財は必ず指定しなければいけないわけではない。ただ、広く報せる必要があるため、この報告を契機に今後の調査につなげられればと思う。

謝 辞

接客の合間に与那国の歴史や民俗についてお話し下さった与那国民俗資料館の池間苗館長をはじめ、島内を懇切丁寧にご紹介下さった池田有貴子氏には改めて感謝します。ありがとうございました。

また、与那国町教育委員会の米城恵氏をはじめ、町民の皆さんからも史跡等の場所をご教示賜りました。ここに重ねてお礼申し上げます。

なお、与那国島の地形図（図1）は国土地理院の数値地図25000地図画像を使用しました。

引用・参考文献（五十音順）

池間栄三. 1955. 『与那国の歴史』

沖縄県教育庁文化課. 2007. 『平成19年度版文化行政要覧』

沖縄県立博物館（編）. 1989. 『総合調査報告書VI－与那国島－』

沖縄タイムス社（編）. 1983. 『沖縄大百科事典』

黒島為一. 1990. 「第四章 八重山の遠見台」 沖縄県教育庁文化課編『沖縄県歴史の道調査報告書VII－八重山諸島の道－』 pp.124-150.

新城さやか・萩尾俊章. 1995. 「沖縄の戦後関係資料と沖縄系移民資料に関する調査報告」『沖縄県立博物館紀要』第21号沖縄県立博物館 pp.19-41.

嵩元政秀. 1990. 「第八節 与那国の道」 沖縄県教育庁文化課編『沖縄県歴史の道調査報告書VII－八重山諸島の道－』 pp.116-123.

富島壮英. 1989. 「ドゥナン（与那国）語源考」『総合調査報告書VI－与那国島－』 沖縄県立博物館 pp.15-24.

宮城政八郎. 1993. 『与那国島物語』 ニライ社.

八重山人頭税廃止百年記念事業期成会. 2003. 『人頭税廃止百年記念誌あさばな』 南山舎.

与那国町教育委員会. 1979. 『与那国町の文化財』

与那国町. 1997. 『町史別巻 I 記録写真集 与那国 沈黙の怒濤 どうなんの100年』

与那国町. 2002. 『町史第一巻 与那国島 交響する島宇宙 日本最西端与那国島の地名と風土』

米城恵. 2003 a. 「人頭税と与那国の人々」 八重山人頭税廃止百年記念事業期成会『人頭税廃止百年記念誌あさばな』 南山舎 pp.48-70.

米城恵. 2003 b. 「与那国島の伝説」 八重山人頭税廃止百年記念事業期成会『人頭税廃止百年記念誌あさばな』 南山舎, pp.203-205.

琉球政府文化財保護委員会（監修）. 1972. 『沖縄文化史辞典』 東京堂出版.



- ①国指定 史跡 先島諸島火番盛（ダティグチディ）
- ②県指定 名勝 久部良バリー帯
- ③県指定 名勝 サンニヌ台
- ④県指定 名勝 ティンダバナ
- ⑤町指定 有形民俗文化財 いぬがん
- ⑥町指定 有形民俗文化財 ていだん・どうぐる
- ⑦町指定 史跡 女首長サンアイ・イソバ出生の地
- ⑧登録文化財 有形文化財（建造物） 入福浜家住宅主屋
- ⑨登録文化財 有形文化財（建造物） 久部良家住宅主屋、石垣
- ⑩登録文化財 有形文化財（建造物） 東迎家住宅主屋、水タンク、井戸、イチタライ、石垣

図1 与那国町の文化財分布（史跡、名勝、有形民俗文化財、登録文化財）

表1 与那国町の文化財一覧^(注1)

		名称	指定年月日	所在地
国指定文化財	重要無形民俗文化財	与那国島の祭事の芸能	1985年1月12日	与那国町
国指定文化財	史跡	先島諸島火番盛	2007年3月23日	宮古島市、多良間村、石垣市、竹富町、与那国町 ^(注2)
県指定文化財	名勝	久部良バリ一带	1974年4月25日	与那国町字久部良
県指定文化財	名勝	サンニヌ台	1974年4月25日	与那国町字阿侘尼原
県指定文化財	名勝	ティンダバナ	1974年4月25日 (1991年12月27日追加指定)	与那国町字野武原
県指定文化財	天然記念物	ヨナグニサン	1985年3月29日	所在地、地域を定めず指定する
県指定文化財	天然記念物	与那国島宇良部岳ヨナグニサン生息地	1985年3月29日	与那国町字与那国宇良部
県指定文化財	天然記念物	与那国島久部良岳天然保護区域	1985年3月29日	与那国町字与那国満田原
町指定文化財	有形民俗文化財	いぬがん	1979年3月24日	与那国町字野武原
町指定文化財	有形民俗文化財	ていだん・どうぐる	1979年3月24日	与那国町字祖納
町指定文化財	無形民俗文化財	与那国のマヤー小節	1979年3月24日	与那国町
町指定文化財	史跡	女首長サンアン・イソバ出生の地	1979年3月24日	与那国町字島仲
町指定文化財	天然記念物（動物）	与那国馬	1979年3月25日	与那国町
町指定文化財	天然記念物（植物）	西真嘉大デイゴ	1979年3月24日	与那国町字西真嘉
町指定文化財	天然記念物（植物）	久部良ミットゥ湿地帯	1979年3月24日	与那国町
町指定文化財	天然記念物（地質）	アラガバナー一带	1979年3月25日	与那国町
町指定文化財	天然記念物（地質）	アンガイミドゥチー帯	1979年3月25日	与那国町
登録文化財	有形文化財（建造物）	入福浜家住宅主屋	2006年12月19日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	久部良家住宅主屋	2007年10月22日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	久部良家住宅石垣	2007年10月22日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	東迎家住宅主屋	2008年3月19日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	東迎家住宅水タンク	2008年3月19日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	東迎家住宅井戸	2008年3月19日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	東迎家住宅イチタライ	2008年3月19日	与那国町字与那国
登録文化財	有形文化財（建造物）	東迎家住宅石垣	2008年3月19日	与那国町字与那国

（注1）沖縄県教育庁文化課「平成19年度版 文化行政要覧」（平成19年12月）および文化庁ホームページ「国指定文化財等検索システム」内の情報を参考にした。

（注2）与那国町では、字屋久手にある「ダティグチヂィ」が含まれている。